

# 地球がうみだす土のはなし



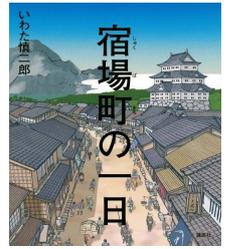
大西健夫／文  
龍澤彩／文  
西山竜平／絵  
福音館書店  
EL/チ

ていがくねんむ  
低学年向け

あきになり、落ち葉がたくさん地面に積もりはじめましたね。地面に落ちた枯れ葉は長い長い時間をかけて土になっていきます。植物や小さな生き物たちが関わりながら土が生まれる秘密を、コナラの木が語り部となって語ります。身近な自然である土のすごさを知ることができ、枯れ葉の落ちる秋にぴったりの一冊です。

# 宿場町の日

いわた慎二郎／作・絵  
講談社  
E/ソ



江戸時代、小牧には「小牧宿」と呼ばれる宿場町がありました。宿場町には大名が泊まる「本陣」や各地を歩き来する旅人が泊まる「はたご屋」など、様々な宿屋がありました。この本はそんな宿場町の、とある「はたご屋」の一日の様子を紹介しています。たくさんの人でにぎわう宿場町の様子を眺めながら、昔の小牧の姿を想像してみませんか。

# 本おじさんのまちかど図書館



ウマ・クリシュナズワミー／作  
長友恵子／訳  
川原瑞丸／絵  
フレーベル館  
933/クウ

ちゅうがくねんむ  
中学年向け

インドの小学生ヤズミンの楽しみは、本おじさんの「まちかど図書館」で毎日一冊ずつ借りて読むことです。ある日、誰かの投書によりその図書館が続けられなくなることになりました。ヤズミンは友だちや町の人たちと協力してある行動に出ます。ヤズミンたちは、「まちかど図書館」をまもることができるのでしょうか？ひとびとの、本に対する熱い思いを応援したくなる、読書の秋におすすめの一冊です。

# やなせたかしの新アラビアンナイト1

魔神島の秘密

やなせたかし／著  
クレヴィス  
913/ヤタ



世界中のいろいろなお話の中でも、『アラビアンナイト』がいちばん好き」という作者が、空想をふくらませながら書いた物語です。現代の「ぼく」は、物語の主人公「ハッサン」となってアネモネ姫を助ける冒険の旅に出ます。魔法のじゅうたん、黒い巨人、黄金の宮殿と、アラビアンナイトの魅力たっぷり。イラストも多く、読みやすい作品です。

# ?が!に変わるとき



小国綾子／著  
汐文社  
070

こうがくねんむ  
高学年向け

日常のさまざまな「問い」への答えを見つけるべく、取材をかさねて、「そうだったのか！」と腑に落ちる瞬間。新聞記者として「？」が「！」に変わる瞬間を追い求める著者が25年間の記者生活や記者になるまでのことを丁寧に綴ります。一人の女性としての働き方・生き方を通して前向きな勇気を与えられる一冊です。

# パフィン島の灯台守

マイケル・モーパーゴ／作  
ベンジー・デイヴィス／絵  
佐藤見果夢／やく  
評論社  
933/モマ



主人公の「ぼく」は子どもの頃、乗っていた船が遭難し、孤独な灯台守の「ベン」によって救助されます。その後、「ぼく」はどんなに遠く離れた場所で暮らしても、どんな試練が襲いかかっても、常に灯台守の存在を心の支えに生き抜きます。一人の青年の成長と灯台守との心の交流を温かく描いた物語です。